

【23_210市況メルマガ】日銀金融政策決定会合、今回の重要ポイント

〇〇さん

こんにちは、クロです。

先週は米国のFOMCと、金曜には日銀政策金利の発表。2つの重要指標があり、市場関係者としては神経を尖らせる1週間でした。

今日は久しぶりに市況メルマガということで、これまでとはちょっと経済・金融環境が大きく変わる可能性がある『日銀金融政策』の変更内容と今後想定される展開についてまとめておこうと思います。

株式市場に限らず、為替にも影響する話なので今後のためにも是非覚えておくと良いです。

■ 今回の日銀金融政策の重要ポイント

結論から言うと、今回の日銀金融政策の最大の変更点は『“実質的”な利上げ』に舵を切ったことです。

発表された「数値上の」結果だけを見ると日本の政策金利は「-0.1%据え置き」であり、一見何も変わっていないように見えます。

しかしながら、多くの人があまりこの点を意識していないようですがあくまで政策金利というのは返済1年以内の『短期金利』であり、長期金利とは異なります。

今回の日銀金融政策で重要な変更点となるのは、YCC（イールドカーブコントロール）の中でも『長期金利の上限を拡張したこと』にあります。

こう書いてしまうとちょっとややこしいので、先日サロンにまとめた概要を特別に引用しますね。

▼サロン内で共有したまとめ内容▼

https://kuro-gaki.com/muhai_saisoku/others/2023-07-30.png

要は、長期金利も今まで0.25%を上限として国債を無制限に買って金利をコントロールしていたわけですが

これをいつまでもやっていると、日米間で金利差が広がる一方であり為替で言えば理論上ずっと円安推移でコストプッシュのインフレ（消費者的には物を買う値段だけが上がる状態）になるので厳しいわけです。

そこで、ある程度国債金利も市場動向にゆだねるということで、今回の政策金利決定会合で「0.5%までの金利上昇は許容する」と言いつつ、日銀の国債買い入れは「1.0%での無制限購入」を行う。

つまり、最大1.0%まで長期金利が上がることは許容するよ、という宣言を遠回りにしたのです。

これによる市場への影響はというと、特に為替にフォーカスして考えると

日米の金利差がこれまでの『拡張（による円安トレンド）』から『縮小（による円高トレンド）』に向かう可能性を示唆しているということです。

これが、実際イメージした通り為替が素直に円高へ向かうかどうかは、市場動向次第なので断定できないことではあります

今回の日銀の政策変更は、今後の市場環境を大きく変えるキッカケになる可能性があり、それを理解したうえで僕らも相場に対峙することが求められます。

引き続き、「相場の先のことはわからない」ということは念頭に置きながら、時々市況の情報を適宜共有したいきたいと思います。